

SGH研究開発事業4年目の取り組みを終えて

校長 上市善章

佐倉高校のスーパーグローバルハイスクール研究開発事業（SGH）は平成28年度の指定から今年度で4年目となり、昨年度に引き続き第1年次から第3年次までのすべての普通科生徒を対象に全校体制で実施することができました。これも、昨年度までの3年間でゼロから立ち上げ、職員と生徒で試行錯誤を繰り返しながら、常により良いものを求めて改善を行いながら年次進行で進めてきた成果が実を結び始めた表れだと考えます。今年度は、研究指導方法・研究実践・研究評価法などの今まで一つ一つ培ってきた財産を活かしつつ運営指導協議会の皆様からいただいた貴重な御指導御助言を基に課題を整理し、その解決に向け、組織・運営体制・教育課程の変更・ICT環境整備などを行うことで当事業をさらに発展させることとしました。また、今年度は本校のもう一本の研究開発事業であるスーパーサイエンスハイスクール研究開発事業（SSH）も新たに文部科学省より指定を受けることができ第2期へと入れたことに加え、新学習指導要領に基づく「総合的な探究の時間」の導入など学校全体として探究学習の進化と深化を目指すこととしました。これらを実現するために、更なる全校体制での取り組みを進めることとしました。このため運営指導体制を刷新し探究学習部を創設し、理数科を主体として実施してきたSSH事業の普通科との更なる連携を図ることとしました。具体的には、SSHの研究と共通する部分を前期の総合的な探究の時間を使って、普通科・理数科を分けずに探究学習に必要な基本的な見方・考え方やスキルの習得やICT関係のツールの使い方、テーマ設定の参考となる各教科による講座などを全校体制で進めました。併せて研究活動全体の進め方、班編成の仕方、テーマ決めに至る指導方法、中間発表の方法やルーブリック評価についての改善し、海外研修の実践内容の見直し等を行いながら実施してまいりました。なお、ICTツールのソフトウェア部分では、GoogleのG-Suiteの活用が軌道に乗り始めるとともに、またハードウェアの部分では、校内でのWiFi環境の整備や大型提示装置などの導入を進めることができ情報環境整備も進めることができました。

現在、政治、経済、環境、生態系など多くの分野において、頻発する問題が、グローバルな視点で考え、グローバルな協力を得なければ解決し得ないものとなっています。言い換えれば、多くの問題がグローバル化していて、その解決にはグローバルな答えが必要になっています。これらの問題に取り組めるように、SGHの探究学習での実践を核として、一般の教科や実生活における「学び」全般において「主体性を持って多様な人々と協働して学べる資質・能力」を育成し、世界の多くの人々と共有できる文化基盤を構築できる人材の育成を目指してこれからも職員生徒一丸となって取り組んでまいります。

最後に、本事業を実施するにあたってご指導いただきました文部科学省、千葉県教育委員会、運営指導協議員の皆様、千葉大学・筑波大学・東京大学・東京外国語大学の先生方はじめ、多くの大学関係者や関係各方面の関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、本校では、SSH、SGHの両指定を誇りに、生徒が主体的な探究者となれるように積極的な事業展開を続けてまいりますので、これからも御指導・御協力を賜りますようお願い申し上げます。